
活動目標

《10》行政との連携と働きかけ

〈住民の声〉

(1) 公共施設・民間施設の有効利用

- ①大きな図書館や広場、子供の遊び場（児童館等）がほしい。
- ②障がい者が安心して安全に利用できる施設整備ができないか。
- ③養護学校卒業後に預かってくれる施設が欲しい。

(2) 交通手段の確保

- ④交通手段を充実させて市内交流ができるようにして欲しい。
- ⑤スクールバスの本数を増やして欲しい。

(3) 生活課題・社会資源等の改善

- ⑥色々な活動が市の中心で行われている。周辺部であっても細かな心遣いをして欲しい。
- ⑦産科・小児科が少ない。安心して子育てできる環境にして欲しい。
- ⑧広報誌や申請書類の内容がわかりにくい。

(4) 関係機関との連携

- ⑨行政や関係機関と一体となった活動をして欲しい。

※バリアフリーとは？

障壁となるものを取り除き生活しやすくすることを意味しますが、ここでは建物の段差の解消等物理的障害を取り除く意味で用いています。

※サロンとは？

同じ地域に住む高齢者や子育て中の母親同士が気軽に集まってお茶会やおしゃべりをしながら情報交換などができる住民による自主的な場所作り

■ 取り組み方法

地域で福祉課題を解決していくためには、行政と社協や民間の団体などがそれぞれで個別に対応しても十分な取り組みはできません。課題を解決するには行政と社協や民間の団体が協働し連携することが重要です。みんなで地域福祉を推進していくという意味で地域における福祉課題や社会資源等を理解しあうとともに市民の皆さんの声を要望として行政に届けます。

〈取り組みの内容〉

(1) 公共施設・民間施設の有効利用

- ①既存の図書館や施設・公園等を有効に活用できるよう情報を提供する。
- ②障がいを持った方が安全に利用できるバリアフリー施設のマップを作成する。
- ③施設の情報提供や、障がいの理解を深めるための研修会・交流会を開催する。

(2) 交通手段の確保

- ④高齢者サロンの開催などを通じて市内交流ができるよう支援する。
- ⑤地域で子供を見守る体制を作る。

(3) 生活課題・社会資源等の改善

- ⑥周辺地域であっても様々な活動に参加できるようにする。
- ⑦家庭でできる応急処置などの医療知識を提供する。
- ⑧高齢者・障がい者にも配慮した広報や申請書類を作成する。

(4) 関係機関との連携

- ⑨行政や関係機関と連携した地域包括ケアシステムを構築する。

※地域包括ケアシステムとは？

住民による問題解決の場へ各種専門職が参画することで地域の様々な社会資源の統合・ネットワーク化を図り、継続的かつ包括的な支援の実現をめざす。

